平成２６年度　史跡真壁城跡発掘調査　現地説明会資料

日　時　平成 26 年 12 月 6 日（土）　午前１０時 30 分、午後１時 30 分
場　所　国史跡　真壁城跡　（桜川市真壁町古城３７７ほか）

桜川市教育委員会　文化財課
説明：宇留野主税（庭園等）
越田真太郎（遺物等）

１．史跡真壁城跡の概要

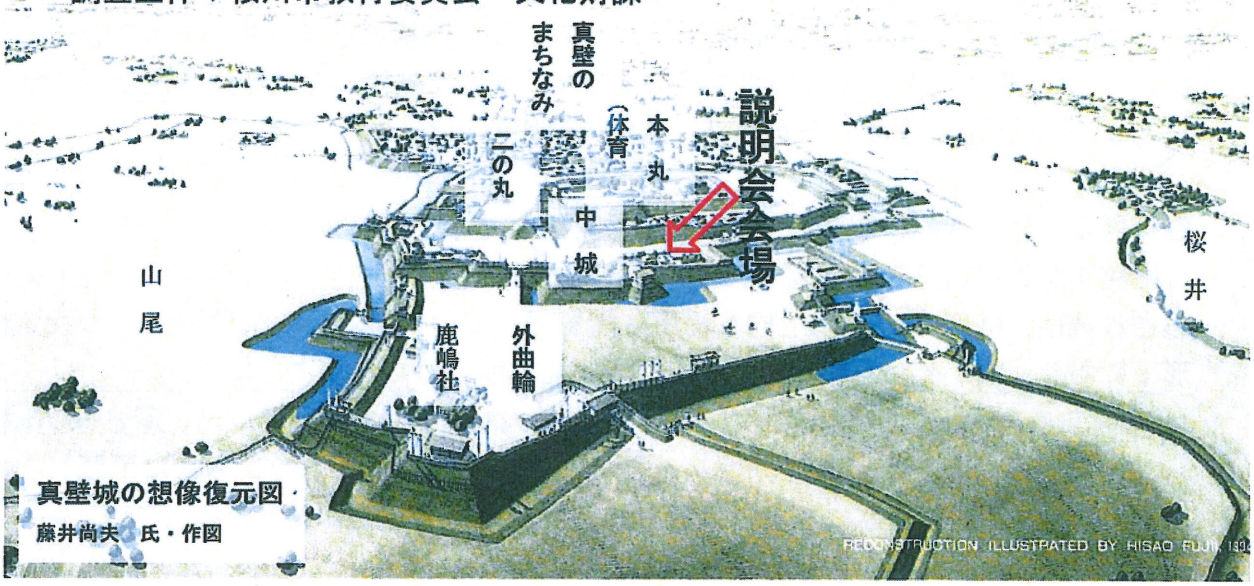
〇国指定日：平成６年 10 月 28 日
〇国指定面積：約 12 万５千㎡（本来の城跡のおよそ東半分）
〇年　　代：戦国時代から安土桃山時代（15 世紀中頃～1602 年）
〇特　　徴：平城。本丸を中心に周囲を二の丸、中城、外曲輪が囲む。
〇現存遺構：堀、土塁、曲輪、城下町（真壁のまちなみ）、地下遺構

２．これまでの発掘調査の経過（史跡真壁城跡保存整備事業・国庫補助）

平成９年度～平成 22 年度　国庫補助事業として、本格的発掘調査を実施（14 年間）。
平成 23 年度～平成 25 年度　発掘休止（３年間　東日本大震災等の影響）
平成 26 年度　発掘再開（４年ぶりの再開）。今年は、15 年目の調査です。

３．平成 26 年度の発掘調査概要

調査面積：１０４０㎡
場　　所：中城の中心部北側、第４５地点など
特　　徴：中城庭園跡。平成 17 年度に発見された南池の北側。
期　　間：平成 26 年８月から 12 月
調査主体：桜川市教育委員会　文化財課



4．発掘の成果

このたびの発掘成果は、さながら北池をめぐる庭園を歩くように解説します。

北池の周囲には、茶室と思われる小規模建物跡２棟、露地遺構（ろじいこう・茶庭の施設群）の園路２箇所、建物１棟と飛石群１箇所、門跡１箇所等が出土しました。

まず、資料の出土遺構配置模式図をごらんください。

●順路１　出発地　「園路１」上につくられた「中門（ちゅうもん）」

調査地点の南端中央には、**園路１**上に柱穴が２基出土しました。西側の柱穴は炭になった木が残っています。園路上に立つ柱穴のため、茶庭の露地（園路、飛び石、建物群などからなる空間）を仕切る**「中門」**と推定。詳細は下記の通りです。

門　跡：**露地遺構。園路１上に柱穴跡２基出土。柱間３ｍ程度。庭園の入り口にあった「中門」（ちゅうもん）と推定。西側は直径 15ｃｍ程の柱が炭となって残存。南池の露地と北池の露地を分ける仕切り門と推定しました。**

園路跡１：**露地遺構。南池から北池へ向かう園路跡。幅３～４ｍ程度、長さ６ｍ程の園路跡。道は粘土質の盛り土で、白い砂、砂利、小石が部分的に残ります。**

●順路２　少し歩くと、左に建物跡３「待合・（まちあい）」、右に水路状の池

中門から北池方面へ向かうと、西側（左手）に小さな建物跡があります。**園路１**に面して立つ**建物跡３**は、茶室の柱間（柱の設置間隔：真壁城の茶室は 1.9m）より小さく、茶室より簡易な建物とわかります。これを露地の**「待合」**と推定しました。

待合から東を見ると、園路の向こうに**水路状の池**、その先に真壁氏の菩提寺であった天目山照明寺（現・伝正寺）を眺めることができます。

建物跡３：**露地遺構。待合（まちあい）跡（１間×２間程度：東西 1.5m、南北 3.0 m程度）。小規模で柱間が各 1.5mと茶室跡より小さく園路１沿いに建ちます。周囲に飛石跡が多数出土。茶室への途中で待ち、身支度を整える建物と推定。**

水路状の池：**南池付近の石組溝は北へ向かうと池状となります。中島２の先にも島状地形があり、細長い水路状の池です。東は土塁溝、北は屋敷区画溝へ、余分な水を排水します。石が残り、全体に石組みだったようです。**

●順路３　北へ進み、屋敷区画溝が見えたら、橋をわたります。

園路１が途切れる辺りに**屋敷区画溝**がありました。江戸中期から現代にかけて掘りなおされ続け、ほぼ 400 年以上同じ場所に溝を作っています。この溝は屋敷境の段差状地形下にあり、橋が架けられ(柱穴が出土)、北池方面にわたったようです。

屋敷区画溝：**北池のある屋敷地と南側の屋敷地を分ける溝。幅 1.2m、深さ 0.3m程度です。延長は東西 26m、南北７ｍ程で、北池周囲の屋敷地をＬ字状に区画します。この溝は、池が満水になると余分な水を受ける調整機能があったようです。**

●順路４　橋をわたると目の前は、北池です。そして、分かれ道。

区画溝を橋で渡ると**北池**が広がります。ここで路線が東西の２手に分かれます。

右へ行くと**園路２**を歩き、**建物跡１**の茶室跡へ向かい、左へ行くと**建物跡２**の茶室跡へと向かいます。この２棟は大きさもほぼ同じで、**建物跡１**の周囲には天目茶碗や風炉など、茶道具が多く出土します。**建物跡２**の西側には焼けた壁土が多く出土しました。

池を眺めながら茶会が開かれたかもしれません。

橋　跡：**露地遺構。園路１の北部、屋敷区画溝内で出土。柱穴が出土。園路１から屋敷区画溝を渡り、北池の半島状地形（焼けた土壁片多数）へ向かいます。**

建物跡１：**茶室跡。１間×２間程度：東西 1.9m、南北 3.8m程度。周囲に茶道具が多く出土しており、茶室と推定。**

建物跡２：**茶室跡。１間×２間程度：東西 1.9m、南北 3.8m程度。小規模で土壁が多く出土し、池を正面にみることから茶室跡と推定。**

園路２：**露地遺構。池の東岸沿いの園路跡。幅 1.5m、長さ 16m程。白砂のやや多い粘土質の盛り土でできている。池東岸に沿って建物１へ向かう園路。**

●順路５　北池を、観察してみましょう。

北池は、東西１７ｍ、南北１７ｍほど、外周の延長は約 60m程と推定しました。平面形は方形に近い形で、南東は幅が狭い水路状になります。深さは 10～50cm 程で、雨水をためる池です。南岸の水際は砂敷きであることが、北池の大きな特徴です。

北池は、東と北を土塁（幅９～１４ｍ程）に囲まれ、池北岸の立ち上がりはそのまま土塁となります。Ⅰ期は素掘りの池、Ⅱ期とⅢ期は中島、水路、半島状の地形を持つ複雑な構造となります。平成 17 年度調査の南池とは、水路状の池や区画溝を介してつながり、北池と南池を並置・機能させるという、広大な池泉庭園（水をためる池を中心にした庭園）だったようです。

Ⅰ～Ⅲ期の３時期変遷（つくりかえ）の様子は次のとおりです。

北池の年代と変遷のくわしい内容　中島の発生・変化を中心に

◆北池Ⅰ期（永禄年間～元亀年間・1558－1573 年）ごろ

素掘りの深い池。真壁久幹の時代。多くが地下に埋まり、全容は不明です。

◆北池Ⅱ期（天正年間・1573－1592 年）ごろ

池の一部を埋めて大きな中島や半島をつくり、中島上には分岐する水路３本を設置。真壁氏幹の時代。多くが地下に埋まり、全容は不明です。

◆北池Ⅲ期（文禄年間・1592 から慶長７年・1602 年）ごろ

中島をかさ上げして高く大きくし、直線的な水路２本を設置。真壁城最新期、真壁氏幹から真壁房幹の時代。説明会で見る遺構の大半がこの時期です。

●主な出土遺物

出土遺物は、土器、陶磁器などが主で、破片数で１万点以上が出土しました。

多くは「かわらけ」と呼ばれる土器盃で、中島の溝や池の埋め土では、大量に出土しており、酒宴・茶会で使われたものが一度に捨てられたようです。

年代の決め手となった「かわらけ」は、16 世紀末から 17 世紀初頭の特徴を示す形のもので、1590 年代から 1600 年前後まで使用された、真壁氏時代で最新型です。この時期のかわらけが大量に出土したのは、真壁城内では今回がはじめてです。

また、点数が少ないですが、貴重なものとしては、

- **中国景徳鎮産等の染付磁器（16 世紀から 17 世紀初頭）**
- **中国龍泉窯産の青磁盤（せいじばん・鎌倉から戦国時代に最高級品とされた青磁大皿）**
- **茶道具では、天目茶碗や風炉（茶湯を沸かす土器のコンロ）、釜の蓋と思われる銅製品。**
- **他に、火縄銃の弾丸３点や碁石、すごろくの駒も出土。**
- **県内初と思われる出土品は銅製箸で、長さ１７センチ程度、断面形が薄い角型である。お香をつまんだり、香炉の灰に筋目をつける箸のようです。１本出土。**

５．平成 26 年度調査のまとめ

最後に、中城庭園の特徴と成果の重要性についてまとめます。

◆中城庭園・北池の年代

北池は、３時期の変遷が確認できました。最新期であるⅢ期の北池は、土器、陶磁器の年代から文禄年間（1592－1596）前後から、真壁氏が秋田に移転した慶長７年・1602 年までに機能した可能性が高く、歴史的事件では、城主・真壁氏幹が朝鮮出兵のため肥前名護屋城に出陣した時期とも重なります。また、中世から近世という時代の過渡期の庭園という点で、城郭史、庭園史、茶道史などからみても、大変貴重です。

◆露地遺構

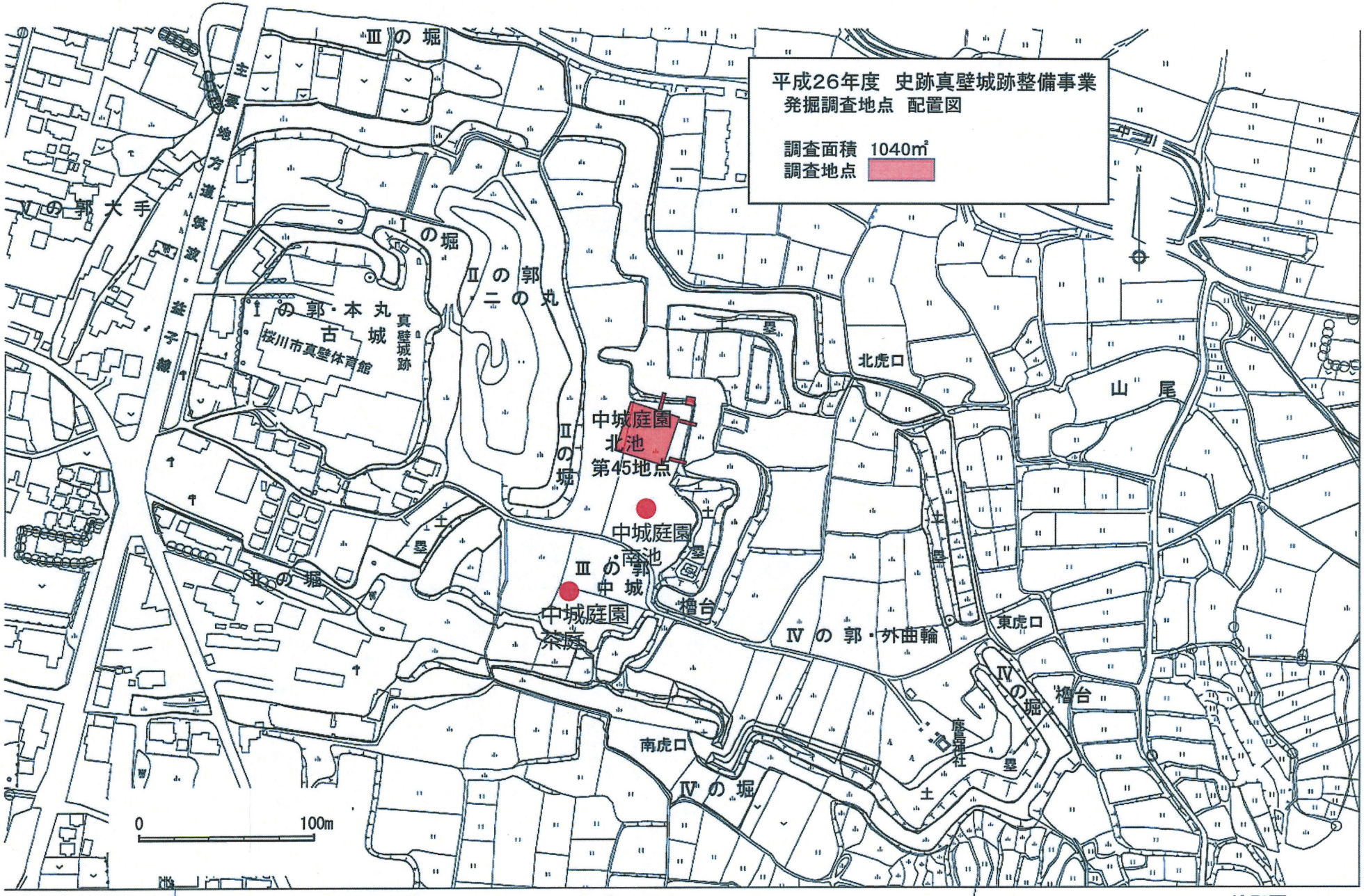
北池Ⅲ期の池周辺には、茶室跡２棟と園路、待合、橋、飛石等がありました。安土桃山時代末期の池と露地遺構（茶庭）の全体像がわかる例は少なく、貴重です。

◆中城庭園の全体像

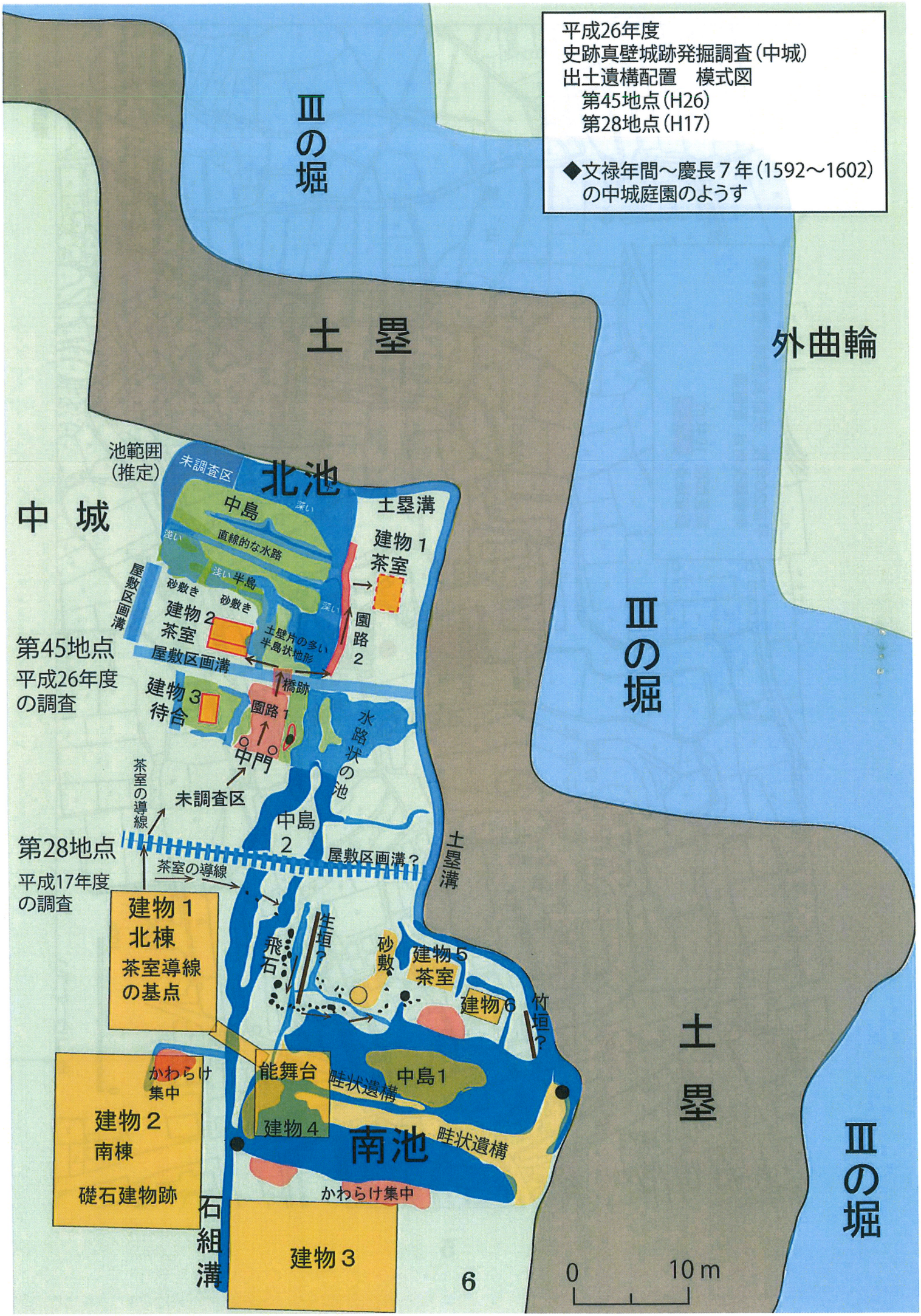
中城庭園は、深い北池と、浅い南池とが水路状の池でつながり、機能していました。また、北池は池の多くが中島で占められていました。この「大きな２つの池が並立」し、「大きな中島を持つ」特徴は、千利休没後の安土桃山時代末期、古田織部や小堀遠州の活躍した、新しい時代の庭園との共通点があり、その影響が想像できます。

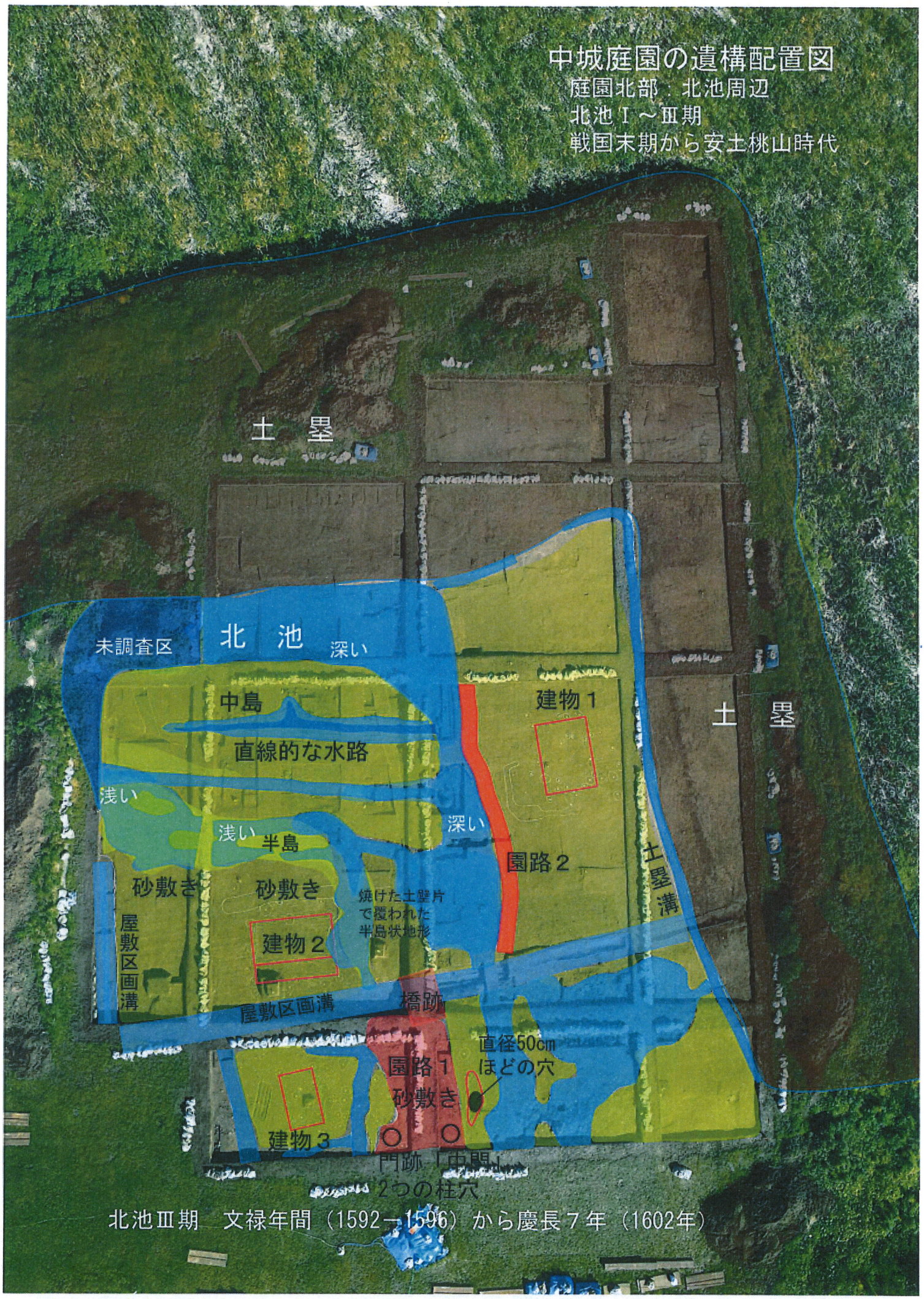
さらに、中城南部で出土したもう一つの茶庭（茶室・池・飛石）を含めると、中城庭園の規模は、南北 110m、東西５０m、面積 5000 ㎡以上と広大で、軍事施設の中城中心部が、酒宴の場や茶庭といった文化的な池泉庭園で占められているとわかりました。

このような城郭庭園の例は、肥前名護屋城跡の山里曲輪（豊臣秀吉居所）や堀秀治陣跡などがあり、肥前名護屋に在陣した真壁氏幹が影響を受けた可能性があります。

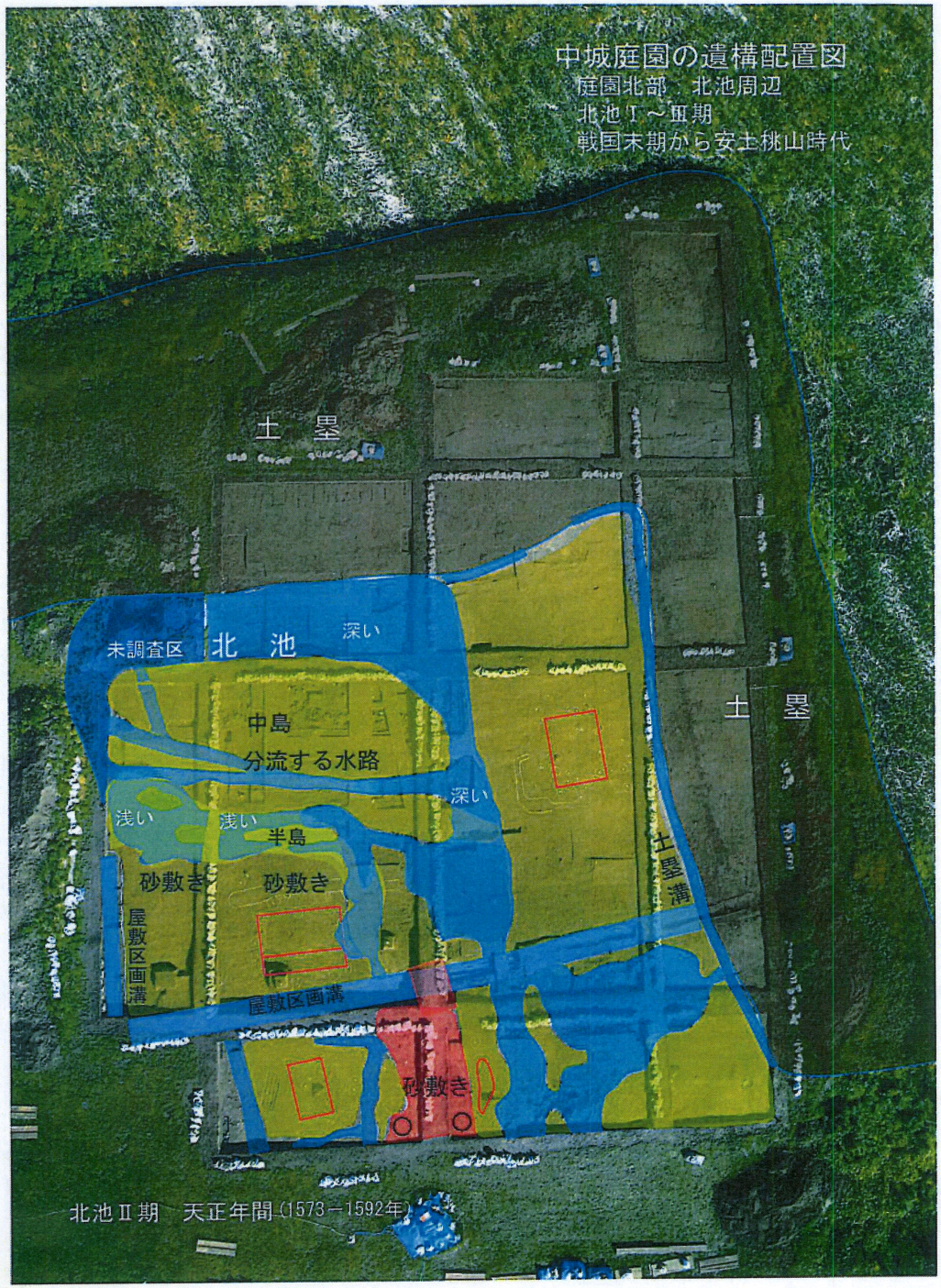

平成26年度　史跡真壁城跡整備事業
発掘調査地点　配置図
調査面積　1040㎡
調査地点
Ⅲの堀
Ⅴの郭大手
Ⅰの堀
Ⅱの郭
二の丸
Ⅰの郭・本丸
古城
真壁城跡
桜川市真壁体育館
主要地方道筑波・益子線
Ⅱの堀
中城庭園
北池
第45地点
中城庭園
南池
Ⅲの郭
中城
中城庭園
茶庭
Ⅱの堀
北虎口
山尾
Ⅳの郭・外曲輪
東虎口
Ⅳの堀
櫓台
南虎口
Ⅳの堀
鹿島神社
0
100m

地形図


平成26年度
史跡真壁城跡発掘調査（中城）
出土遺構配置　模式図
第45地点（H26）
第28地点（H17）
◆文禄年間～慶長７年（1592～1602）
の中城庭園のようす
Ⅲの堀
土　塁
外曲輪
池範囲
（推定）
未調査区
北池
中　城
中島
深い
直線的な水路
浅い
浅い半島
砂敷き
砂敷き
深い
土塁溝
建物１
茶室
園路
２
屋敷区画溝
建物２
茶室
土壁片の多い
半島状地形
第45地点
平成26年度
の調査
屋敷区画溝
橋跡
建物３
待合
園路１
中門
水路状の池
茶室の導線
未調査区
中島
２
第28地点
平成17年度
の調査
茶室の導線
屋敷区画溝？
土塁溝
建物１
北棟
茶室導線
の基点
飛石
生垣？
砂敷
建物５
茶室
建物６
竹垣？
能舞台
畦状遺構
中島１
かわらけ
集中
建物２
南棟
礎石建物跡
建物４
南池
畦状遺構
かわらけ集中
石組溝
建物３
Ⅲの堀
土　塁
Ⅲの堀
0
10 m


中城庭園の遺構配置図
庭園北部：北池周辺
北池Ⅰ～Ⅲ期
戦国末期から安土桃山時代
土　塁
未調査区
北　池
深い
中島
直線的な水路
浅い
浅い
半島
深い
建物１
土　塁
園路２
土塁溝
砂敷き
砂敷き
焼けた土壁片で覆われた半島状地形
建物２
屋敷区画溝
屋敷区画溝
橋跡
直径50cmほどの穴
園路１
砂敷き
建物３
門跡「中間」
２つの柱穴
北池Ⅲ期　文禄年間（1592－1596）から慶長７年（1602年）

中城庭園の遺構配置図
庭園北部：北池周辺
北池Ⅰ～Ⅲ期
戦国末期から安土桃山時代
土　塁
未調査区
北　池
（素掘りの深い池）
土　塁
砂敷き
砂敷き
屋敷区画溝
屋敷区画溝
土塁溝
砂敷き
北池Ⅰ期　永禄から元亀年間（1558－1573）


中城庭園の遺構配置図
庭園北部：北池周辺
北池Ⅰ～Ⅲ期
戦国末期から安土桃山時代
土　塁
未調査区
北　池
深い
中島
分流する水路
深い
浅い
浅い
半島
土　塁
砂敷き
砂敷き
屋敷区画溝
屋敷区画溝
土塁溝
砂敷き
北池Ⅱ期　天正年間（1573－1592年）